

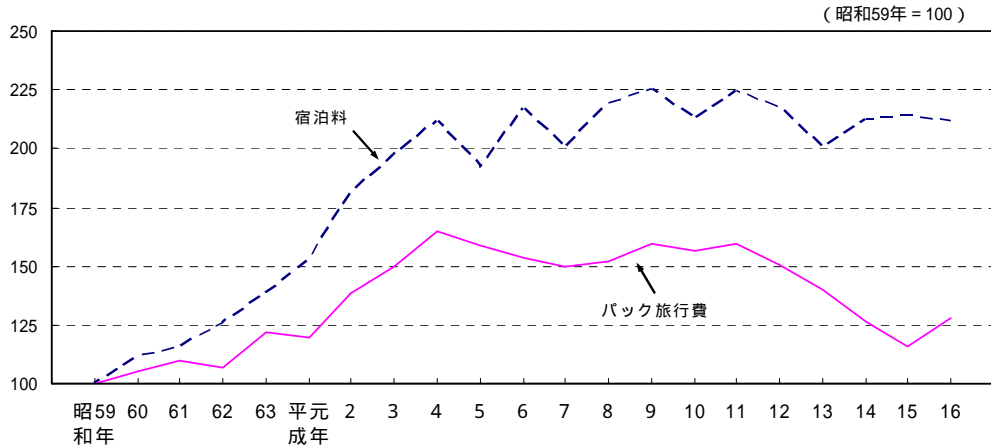
4 増加した外国パック旅行費，書籍及び映画・演劇等入場料

(1) 外国パック旅行費が増加

年間の支出金額を20年前の昭和59年を100とした指数で見ると、宿泊料は、平成4年までは大幅な増加を続け、その後おおむね横ばいで推移し、16年は211.6となっている。

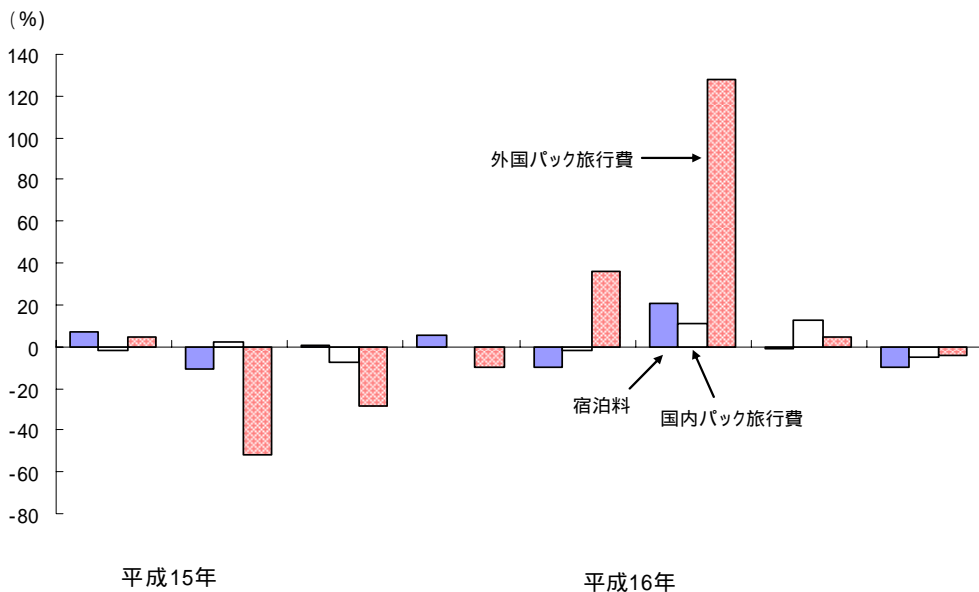
一方、パック旅行費は平成4年から11年まではおおむね横ばいで推移し、12年から減少傾向にあったが、16年は127.6と増加となった(図46)。

図 46 宿泊料とパック旅行費の支出金額指数の推移(全国・全世帯)



平成16年の1世帯当たりの宿泊料及びパック旅行費(国内・外国)の動きを四半期別の対前年同期名目増減率で見ると、外国パック旅行費は、15年4～6月期はSARSやイラク戦争の影響などで大幅な減少となり、その後も15年10～12月期まで減少が続いた。平成16年に入ると、1～3月期は増加に転じ、4～6月期は15年の反動やゴールデンウィークの曜日配列が良かったことなどから、大幅な増加となり、7～9月期も増加となっていたが、10～12月期は年末年始の曜日配列が良くなかったこともあって減少となった(図47)。

図 47 宿泊料及びパック旅行費(国内・外国)の四半期別対前年同期名目増減率(全国・全世帯)



(注) は1～3月期， は4～6月期， は7～9月期， は10～12月期を表す。

(2) 書籍及び映画・演劇等入場料の消費

ヒット作に牽引されて伸びた支出金額

身近な娯楽への消費である書籍と映画・演劇等入場料について、1世帯当たりの年間の支出金額を昭和60年を100とした指数でみると、映画・演劇等入場料はヒット作の増加もあって上昇し続け、昭和60年の約2倍まで増えている。また書籍は、おおむね昭和60年に近い水準で推移していたが、インターネットの普及もあって平成9年以降低下傾向が続いた。しかし、平成16年は映画やテレビドラマと連動したヒット作などもあったことで、91.2と低水準ながらも前年を上回った(図48)。

書籍の平成15年から16年の対前年同月名目増減率の動きをみると、15年1月以降おおむねマイナスで推移していたが、5月から減少幅が縮小傾向になり、11月にはプラスに転じた。平成16年も減少となる月はあるものの、書籍の支出金額は増加の傾向となり、人気書籍の発売もあって9月は名目27.8%と大幅な増加となった(図49)。

図 48 書籍及び映画・演劇等入場料の支出金額指数の推移(全国・全世帯)

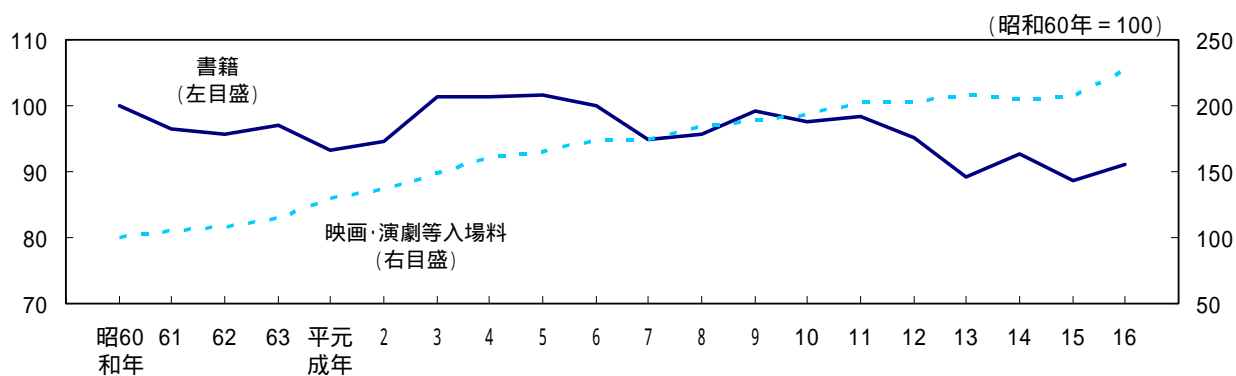


図 49 書籍の対前年同月名目増減率の推移(全国・全世帯)

